

被害者・家族の
『声』を
『未来』を変える力に

2019. 1. 24

優生保護法弁護団 弁護士 藤木 和子

弁護士 藤木和子

1982年(昭和57年)生まれ

2012年から弁護士として活動



『全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会』

『聴覚障害のきょうだいをもつSODAソーダの会』

(Siblingシブリング＝兄弟姉妹 of Deaf)



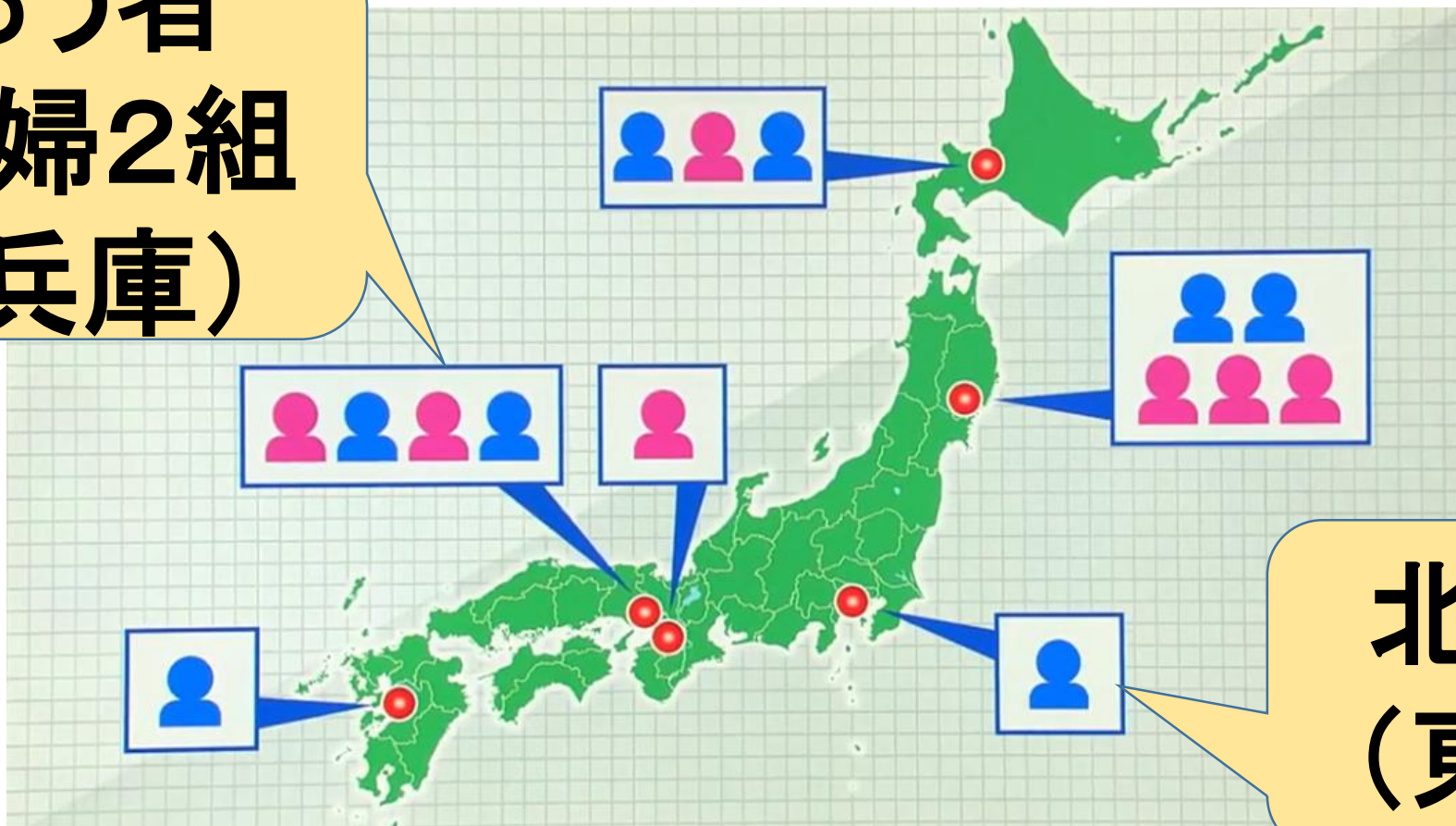
- ・優生保護法弁護士団(兵庫でろう者夫婦2組が提訴)
- ・ろうあ連盟電話リレーサービス法制化、強制不妊手術対策委員
- ・筑波技術大学法律学講師

2018年1月30日に仙台で初提訴 なぜ、弁護団が先頭？



全国で訴訟は15人

ろう者
夫婦2組
(兵庫)



北さん
(東京)

東京 多くの傍聴ありがとうございます



ろうあ連盟対策チーム委員



左から：石野理事長、福島議員、大竹委員長、久松事務局長、藤木弁護士

私（健聴）と弟（難聴）

（豆知識）

実は、吉田松陰は7人きょうだいの次男
兄、妹4人、弟
15歳年下の弟が聴覚障害

神奈川県ろうあ大会青年部作成『私たちの夢』より(30秒)



温かいご指導と対話を
よろしくお願いいたします

• 1981年 国際障害者年・・・生まれる1年前

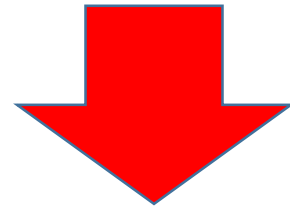
• 1995年 ドラマ 手話ブーム・・・中学1年生

『愛してると言ってくれ』、『星の金貨』

• 2013、4年 障害者差別解消法、権利条約
・・・弁護士2、3年目

本日の内容

裁判の『被害者・家族』の『声』
『きょうだい・家族・女性』の『私の声』
裁判に加わったきっかけ、変化・学び



みんなの『声』で『未来』を変えたい！

裁判の被害者・家族の『声』



『優生保護法』

(参考)

ナチス・ドイツ政権

『遺伝性疾患
子孫防止法』

優しく生きる？
良い意味の法律だ
とっていた...

(ろう者の方から)

『強制不妊手術』

『国の法律』で『子どもを作れなくする手術』

『~~不妊手術~~の子孫』

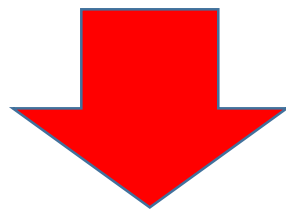
障害者など1万6500人
(女性が7割)

『優生保護法』

ろう・難聴

1948年～1996年

- ① 遺伝性の障害・疾患
- ② 遺伝性でない精神・知的障害・ハンセン病



『国』の指導で親(きょうだい)が手術へ
『家族の分断』

『強制』

『身体の拘束、麻酔、だまし(盲腸等)の
手段を用いることも許される。』

(1953年**厚生省**事務次官通知)

不妊手術(強制・同意)、人工妊娠中絶 8万3963件

• 強制不妊手術 1万6475件

- ①遺伝性疾患 1万4566件
- ②非遺伝性疾患 1909件

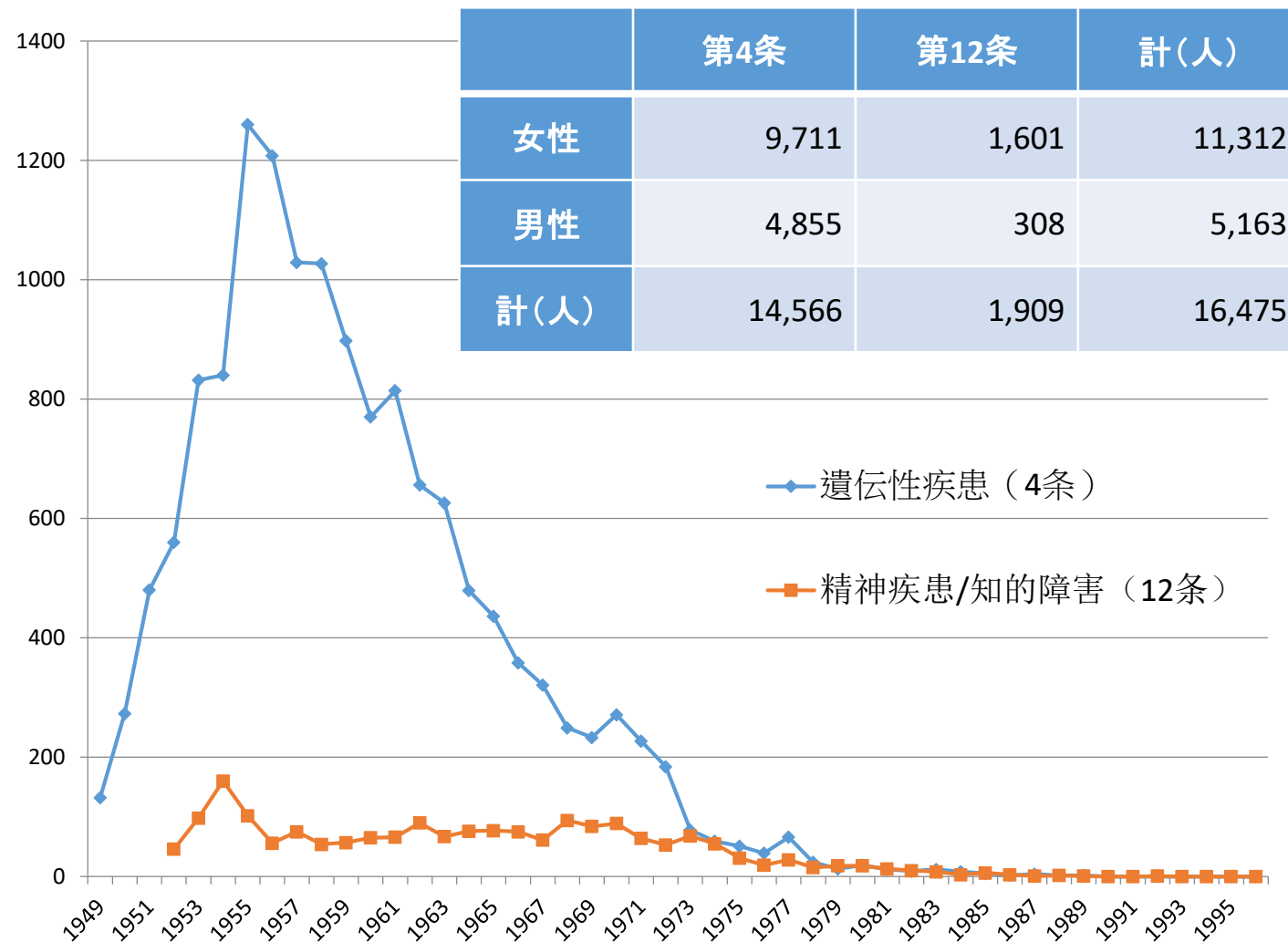
• 同意による不妊手術 8516件

- ①遺伝性疾患 6965件
- ②ハンセン病 1551件

• 人工妊娠中絶 5万8972件

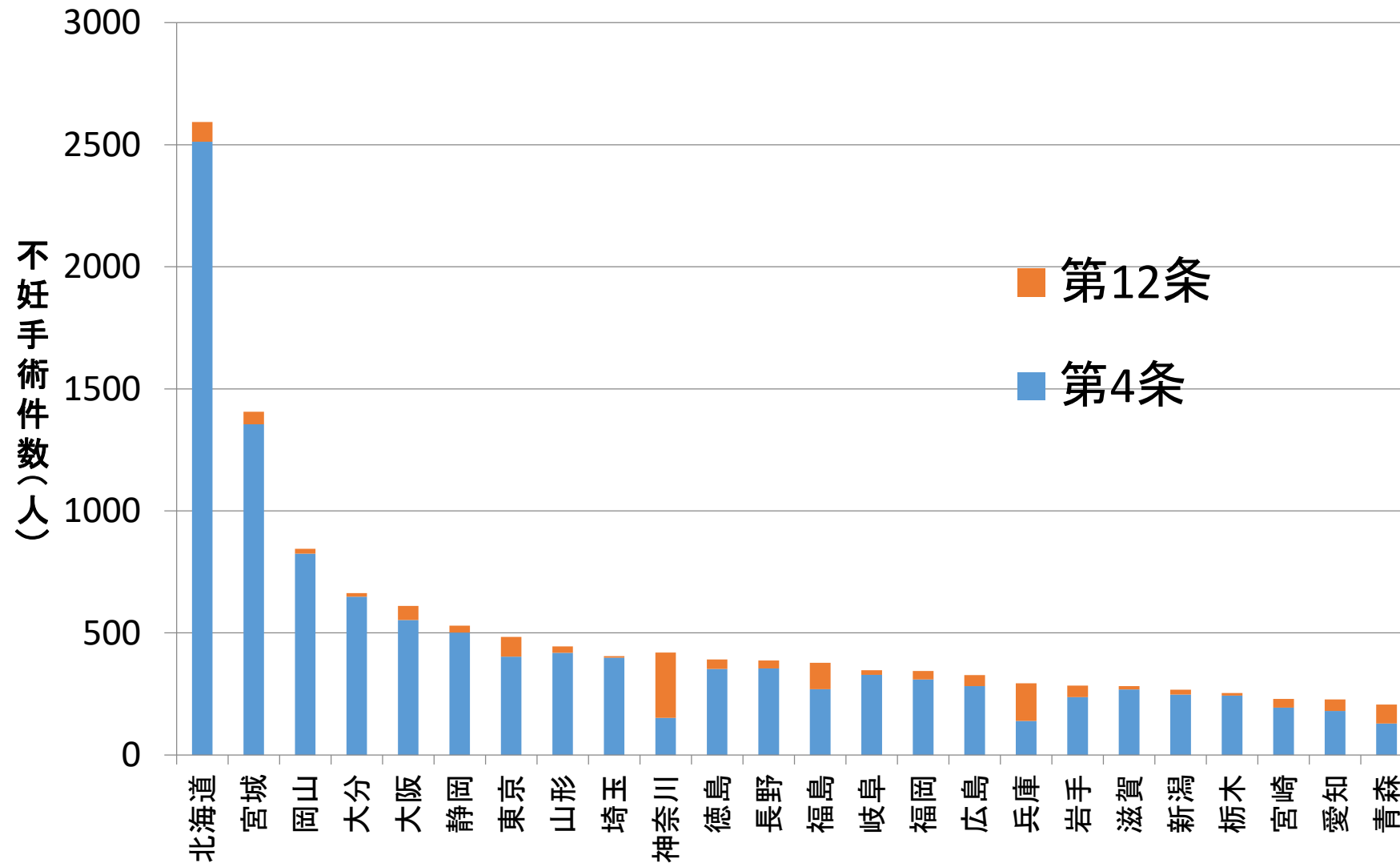
- ①遺伝性疾患 5万1276件
- ②ハンセン病 7696件

本人の同意を要さない不妊手術の推移



『衛生年報』(1949～59)、『優生保護統計報告』(1960～95)『母体保護統計報告』(1996)より

本人の同意を要さない不妊手術の都道府県別件数



不妊手術（強制・同意）、人工妊娠中絶 8万3963件

聴き取り調査

聴覚障害者131人
(男32、女99 152件)

中絶＋不妊、中絶複数回の例も

(全日本ろうあ連盟、2018年11月末)

原告15人(60～80代)

(手術を受けた方12人、配偶者3名)

- ・ **知的**障害女性4名(+夫1名)
⇒ 3名は『きょうだい』などが生活・裁判を支える
- ・ **聴覚**障害男女2名(+夫、妻2名、兵庫)
- ・ **肢体不自由**男性1名
- ・ **障害なし** 男性2名、女性1名



手術対象の勝手な拡大



手術の理由は？ 疾患・障害は？ 記録なし

16歳で手術

**女性団体、女性障害者団体とともに
20年間被害を訴えてきた**

飯塚淳子さん(仮名・宮城)

『何も知らされず子どもを産めない体に
人生が全て無駄になった』

『家庭は貧しく、知的障害者のための
施設に入所させられた。
手術後は体調が悪く、仕事は続かず。
結婚したが子どもができず離婚。
若い頃に返して。』

北三郎さん(東京)

複雑な家庭環境、生活が荒れ、
施設へ、14歳で手術

のちほど、ご本人の『声』



知的障害の女性

15歳で手術

佐藤由美さんと義理の姉の路子さん
(仮名・宮城)

由美さん(知的障害・仮名)の義姉 (夫の妹が由美さん)

『嫁いできたときに、へそ下に縦に
10センチ以上のお腹の傷。
40年以上、おかしいと思っていたが、
詳細はわからずじまい。
ニュースを見て『妹と同じ』

ろう者のご夫婦の例①

小林さんご夫婦(兵庫)



小林さんご夫婦

妻が妊娠。夫婦双方の母が相談。
『赤ちゃんがくさってる』と中絶、不妊手術。
怒りの夫、母は『私のことを殺しなさい』

親は国やろう学校の先生を信じた・・・

家族の分断、親も被害者・・・

ろう者のご夫婦の例②

高尾さんご夫婦（仮名・兵庫）



高尾さんご夫婦

結婚の条件に夫婦双方の親が相談。

夫が何も説明がなく手術。

『子どもを作っちゃだめ』と言われていた
ので不妊手術だと悟った。

手話通訳がいれば断れていたかも・・・

『被害者・家族の会』

- (知的障害)『家族』が加担、代弁が必要
- (聴覚障害)『家族』が加担、分断。裁判への反対も。
- 会の名前に『障害』は入れないことに。

⇒障害・性別・家族・子どもの有無を越えて

みんなの『声』で国会議員も動いた！



北三郎さん(75歳、東京)

複雑な家庭環境、生活が荒れ、
施設へ、14歳で手術

裁判から半年後、『顔』を出す決意！
⇒自分が先頭に立ち、
他の方にも『声』を上げてほしい



**複雑な家庭環境
生活が荒れ、児童施設へ14歳で手術**

**国の施策と知らず
『父と施設を恨んだ』**

28歳で結婚したが...

**『孫が見たい』と言われ
『情けなくて悔しかった』**

妻が病気で亡くなる数日前に
告白…

ニュースで
『俺のことだ！』『国がしていた』

弁護団に電話相談 裁判を決意

全国弁護団 2019年1月30日

『旧優生保護法被害に関する相談』

電話番号は0120・990・350

FAXは03・5501・2150

姉とも互いにようやく話せた

『高校生の時、祖父母に手術のことを
言われたが口止めされた。

自分は孫もいるが、弟夫婦を見ながら、
何十年間も苦しかった。』

『裁判は頑張って』

恨むべきは国だった

父が手術を受けさせた
成人前に宮城を出た
結婚式も呼ばなかった

『誤解、すまなかった』

被害者・家族の会共同代表・顔を出して戦う 他の人にも『声』を上げてほしい



被害者・家族の会声明①

『国は、悪かったことを認めて謝って。
昔のことだからではなく、きちんと謝って。
私たちの気持ちを尊重して法律を。
被害の十分な補償と人権の回復を。』

被害者・家族の会声明②

『被害者は勇気を出してほしい。
一人でも多くの人に声を上げてほしい。
情報が届かない人が多いです。
一人でも多くの人に情報を届けて。
・・・もう高齢、一日でも早く解決して。』

2019年2月19日13時東京地裁前 みんなの『声』で『未来』を変える



『きょうだい・家族・女性』の『私』の『声』 (朝日新聞2018年7月23日)

「障害ある人の姉として
優生思想乗り越えたい
葛藤しつつ前へ」

(藤木HPで全文掲載)

裁判に関わったきっかけ

『きょうだい』

障害のある人の兄弟姉妹の視点

『誰かのため』ではなく『私自身のため』

『母』への陰口

『畑が悪い』 『産むのが下手』

私は『相手が間違っている』とは思わず、ただ受け止めました。

私も『悪い畑から生まれた』ことになります。

(聴親からきょうだいが複数聞こえない例は多い)

もちろん、母にも誰にも言えませんでした。

相当努力しないと結婚できないと思いました。

言われたことがありますか？

『障害のない人の
2倍も3倍も頑張れ
努力！努力！努力！』

『聞こえるのだから、弟の分も頑張れ』

父が弁護士で、きょうだい児になったと同時に後継娘
地元で女性、東大、弁護士は三重苦...

光が濃くなっていくと同時の自分の中の闇も濃くなった
弁護士になるまでろう者の弁護士との出会いなし

⇒努力、得たものの価値は否定しない

⇒では、失ったものは？〇〇



聞こえない弟がいても
初めて「手話の人」に出会ったのは29歳



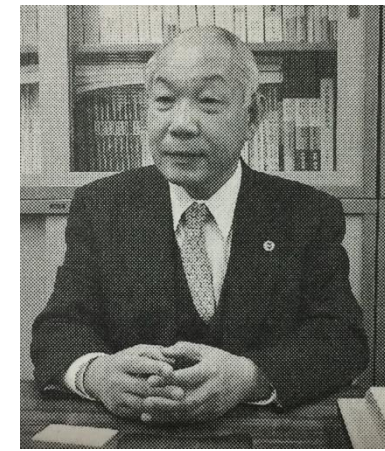
聞こえない弁護士

- ・松本晶行先生(大阪)約50年
- ・山田裕明先生(東京)約35年
- ・田門 浩先生(東京)約20年
- ・久保陽奈先生(東京)約10年
- ・若林 亮先生(東京)約 5年

- ・専属手話通訳者、速記者
メール、UDトーク等の機器
- ・弁護士として社会に貢献

＜番外編＞

- ・大胡田誠先生(東京)「全盲の僕が弁護士になった理由」



人間としての『尊厳』

(兵庫のろう者の原告夫婦)



裁判に加わってからの学び

〈障害者権利条約17条〉

『心身がそのままの状態で

尊重される権利』

だが、弁護士になったから、今ここで発言できる
聴者の身体なのも事実 『言えるは癒える』

『社会のもののさし』の呪縛

◆戦争でお国の役に立つか

⇒軍国少年・少女

◆会社の役に立つか

⇒学歴競争サバイバル、企業戦士、社畜、過労死

◆子どもを育ててこそ一人前

⇒『女は子どもを産む機械』『LGBTは非生産的』

この世に生をうけたろうあ者の義務

(1964年8月サイレント紙)

『周囲、肉親に迷惑をかけずに技術をみがき、
一般の人たち以上の実力。国家に寄与』

『ろうあ者を少なくする運動を率先する必要』

(ろうあ者が多すぎでは税金に負担、国家にマイナス。

支援も減る。少数で教育の徹底、質的向上に力を注ぐ。)

『自分のものさし』も『社会』から自由ではない

- ・『名誉健常者・一流企業』(ナチスにも難聴者)
- ・『福祉』『特別支援教育』を天職
- ・『障害者運動』・『ろう文化、コミュニティ』
(声と補聴器を捨て手話を選んだ口話の優等生)
- ・『反社会的活動』(某宗教家⇒社会への恨み、
方向性が逆なら素晴らしい活動ができたのでは?)

原告の方々の勇気に励まされ、 『きょうだいの立場の弁護士』を前面に



大学生の時、優生保護法を知る 手術を受けた女性に共感

『結婚や出産の夢を捨てるために手術』

『手術を受けて楽、良かった』(のちに撤回)

⇒私は強く明るくたくましく生きたい。

安易に否定しないでほしい。

⇒肩身が狭いのは嫌。結局、『同類婚』。

ひとりの『きょうだい女性』として 私も『声』を上げたい

『学生時代、青春を無駄にしてしまった。
優生思想に支配されていた。悔しい。』

(60代男性、きょうだい)

⇒私も『きょうだい』は隠れた原動力だったが、人に言えない秘密。
二重生活に常に50%くらいのエネルギーを消耗していた。

⇒出産と向き合う年齢でもあり、正に自分のテーマだった。

寄せられたきょうだいの『声』

『兄弟姉妹が手術。
(涙ながらに)誰にも言えず苦しかった』

『たまたま父が断ったが、
もしかしたら妹も・・・』

⇒『きょうだい』の心情と『親なき後』

原告のきょうだいの『声』に出会う

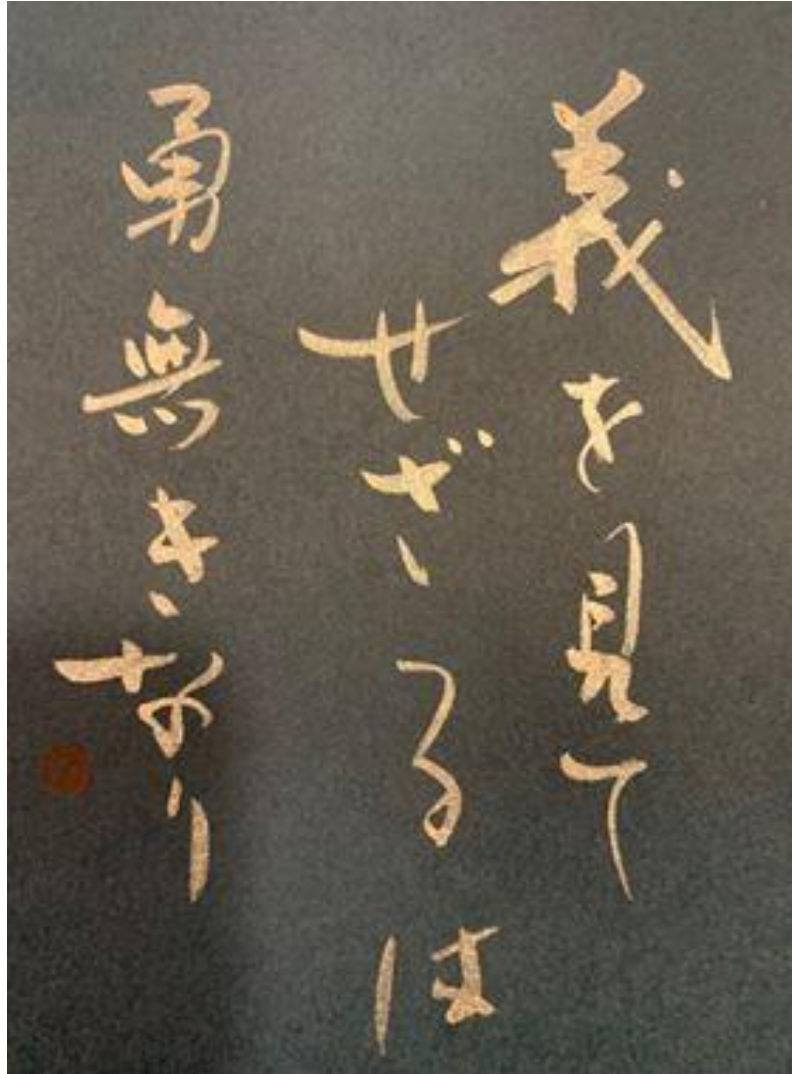
〈佐藤由美さん(知的障害・仮名)の
義理のお姉さん、夫の妹が由美さん〉

『同じ女性として『妹』のこと』

『裁判は、『娘』には理解してほしかった。』

⇒裁判の原告第1号に

原告のきょうだいの『声』に出会う



正しいことを
わかっていてしない
のは
勇気がないこと

『私』の『声』は上げていいの？

『障害ある人の姉として、
優生思想乗り越えたい 葛藤しつつ、前へ』

（朝日新聞2018年7月23日）

（藤木サイトにPDF記事掲載）

「誰もが生まれて良かったと言える社会を作りたい」
で終わるが

反応をもらえたことにまず感謝

『親』: 父: 俺は一生懸命お前を育てた 母: 肯定的だが...

『弟』: 母は人一倍苦労した。自分は？わからない。

『他のきょうだい』:

聴覚障害なら、私は悩まなかった(知的障害のきょうだい)

『親戚や知人』『弁護団』『障害者』『支援者』にも感謝

きょうだいからの複雑な『声』

- 障害のある姉妹の生理介助、兄弟から暴力や性的な行為
- 障害のある兄弟姉妹が出産、自分が世話
- 手術に加担したきょうだいを責められない

⇒ 誰もがちゃんとSOSを出せ、受け取ってもらえる社会

個人、家族、社会とそれぞれの視点を持つことが大切

⇒ 『聴覚障害のきょうだいの自分』を実感したのも事実

当初、弁護団（全国250名）への疑問

『もし、自分の子ども孫が、
障害のある人や家族と結婚したい
と言ったらどうする？』

当初、弁護団（全国250名）への疑問

⇒誰にでも『**弱さ**』はある。**やさしく**ある必要。
何も生み出さないので考えることをやめた。

⇒私の存在を認めてくれていることに感謝。
さまざまな立場の人と一緒に前進したい。

障害のある夫をもつ聞こえる妻から

「結婚する時に、親から反対された」

「夫には言えなかった」

「似た立場の人がいたので相談できた」

⇒自分から家族になった人への遠慮
今回をきっかけに話せた・・・

『きょうだいの先輩の死』

『あなたにはあなたの人生があるんだよ。
兄弟姉妹のことにしばられなくていい。
子どもの頃に言われていたら人生違った。』

(亡くなる数日前のやりとり)

⇒『子育て中の親御さんの周囲、次世代に伝えたい』

『産む権利』、『育てる権利』 『人として当たり前の権利』を奪われた？

『命を生む』ことの尊さ。

しかし、それぞれの考え、事情。多様性尊重。
障害・性別・家族やお子さんの有無を越えて

⇒『選択』に良い悪いはない
大事なのは何を選択するかと『情報』

参考 聴覚障害者同士の結婚

- 100件以上お見合い成立のろう学校の先生も
- 親も聴覚障害者だとお見合いさせてもらえない例
(全体1割)
- 『聞こえる子どもを生みたい』
子どもも聞こえないと『運が悪い』、『残念』？

参考 ろう、デフファミリー

- 家庭内のコミュニケーション、教育面で有利
- 何代も続くろう、デフファミリーも（日本、海外）
- 『ろうの子どもを生みたい』
聞こえる子ども『ろうに生まれたかった・・・』
- 他の障害の世界はどのようなのでしょうか？？

『どっちでも家族』

- ・『聴がいい/ろうがいい』 選べない・・・

さまざまな背景を経て、持つに至った親の願望
『障害児の方がきょうだいよりもかわいい』

- ・『どっちでも家族』、『あなたはあなた』

心からそう思えるように・・・

障害に関係なく本当の意味で助け合える世界へ

50年以上助け合ってきた素敵なろう者のご夫婦 『被害者』ではない部分も知ってほしい (私個人の願い)



北さんの作品と目標



『未来』につなげるために『家族』として

『2018年12月10日 ろうあ連盟から議員連盟への要望書』

- ・ 家族の分断への謝罪（配偶者・親子・兄弟姉妹）
- ・ 障害のある子ども、育てる親・兄弟姉妹支援

⇒加害者・被害者を作らない

⇒情報と相談：差別や偏見への対応、成人障害者の姿を知る、交流

チームの大先輩の方々のご賛同に感謝いたします。

（いつも『きょうだい』とうるさくてすみません）

『未来』につなげるために『家族』として

『2018年12月10日 ろうあ連盟から議員連盟への要望書』

・障害のある親への子育て支援、子ども支援

⇒産む権利と育てる権利

⇒子どもの権利は最も重要、

親の養育義務を果たすための支援

『未来』につなげるために『家族』として

『産む権利・育てる権利』に対して・・・

⇒『育てる義務を果たせ』という第三者からの『声』

⇒では、『生まれてきた子ども』の『声』は？

『CODAコード（聴覚障害の親をもつ子ども）』

（60代～80代の聴覚障害者で子どもがいる人も多い）

『若いのに、よっぽど嫌な思いをしたの？』

- ・『きょうだい』としては平均かそれ以上の環境
- ・『声』を上げれば『未来は変わる』と知った
聴覚障害者の運転、薬剤師免許/障害者権利条約など
『社会』はそこまで悪いところではないらしい
- ・『どの人の『声』も敬意を持って尊重される『未来』
- ・先人の智恵、活動、寛容さへの感謝

今になって憲法を見て

幸福追求権（13条）

『幸福になる権利』ではなく『追求権』

自分がこれだと思う『幸福』を

自分で、または自分がともにしたい人と

『追求』できる『未来』をみんなの『声』で

過去幾多の試練に堪へ、

人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果（97条）

みんなの『声』で『未来』を変える

(全国きょうだいの会の理念)

ひとりだけで苦しむのはよそう
ひとりだけでボソボソ言うのはよそう
なぜならそれは皆の苦しみなのだから
“生きていて本当に良かった”と
きょうだいと障害者(とすべての人)が
ともに言える社会を創ろう！！

ソーダ&デフの「きょうだい」 一緒に考えよう！



2019年2月19日13時東京地裁前 みんなの『声』で『未来』を変える！



本日はどうもありがとうございました 今後もよろしく願いたします

【今後の予定】

- 1月26日『電話リレーサービス@川崎』（手話の予定）
- 2月 2日『きょうだい・家族と社会の関わり』（優生はサブテーマ、手話の予定）
- 2月17日『親・きょうだい・パートナーが病気になる時@飯能』
- 3月10日『聴覚障害のきょうだいをもつソーダの会』
- 3月24日『親ときょうだいが本音で語る未来と親なき後』

詳細は弁護士藤木和子大人になったきょうだい児
プロフィール、講演予定と依頼

<https://note.mu/kozukazuko/n/n71a9179ad833>

